

LIGHTING+2

商店建築 6月号増刊 ライティングプラス2

特集

住宅のライティングデザイン

Residential Lighting Design

トラフ建築設計 藤本壮介 山口誠 TNA
新関謙一郎 郡裕美 小川晋一

特別対談

内田繁 × 藤本晴美

Dialogue: SHIGERU UCHIDA + HARUMI FUJIMOTO

蛍光灯のチカラ

Potential of Fluorescent Lamp

Interior Lighting Analysis

ショップの光環境を解剖する

大塚則幸×山口晋司

取材・文 / 加藤 純



常に時代の先端を見据えながらデザインを迫られるインテリアデザインの世界。

トレンドに引っ張られ過ぎることなく、インテリアデザインと

光がもたらす新しい感覚の可能性に挑戦する大塚則幸さん。

そして、多くのインテリアデザイナーとともにショップのライティングを

構築してきた山口晋司さん。繊細で濃密なショップインテリアの照明の世界を、

今回は二人の手掛けたブティックをケースにつまびらかにしていく。

“光学的”デザイン

この数年、インテリアデザインで“明るい暗さ”を追求しているという大塚則幸さん。「シャンデリアやコルトンボックスのような装飾的な照明よりも、“光学的な”照明デザインを重要視しています。空間に入って居心地が良いと思えるためには、どうすべきか。ライティングデザインは、全体の空間を構成するための手段と捉えています」と語る。大塚さんとライティングデザインでプロジェクトをもとにもすることの多いオンアンドオフの山口晋司さん。二人は話し合いながらイメージを共有し、照明で空間を感じさせるライティングを追求している。

ここでいう「光学的な」照明というのは、スポットライトを中心としたテクニカルライティングのことを指している。二人によると、図面の計画段階での完成度合いは3割ほどで、残りの7割は現場でライティングを調整することで決まるという。大塚さんは「ライティングレールを適切な位置にあらかじめ設置しておきますが、現場でのフィニッシュで雰囲気がいまひとつ変わってきます」と語る。天井埋め込みで固定されたダウンライトは均質な光を得やすいが、トルソーなど展示物の位置が変わると対応しにくい。スポットライトはこの点、レイアウトの変更にある程度対応できる

というメリットもある。

また器具に付けるフィルターなどの進歩もある。最近では種類が急速に増え、光の特性をさまざまに変えられるようになった。レンズ、グレアカット、ルーバー、ハニカムなどは、光の色温度を変える、光を「伸ばす」「広げる」「縮める」といった制御ができる。大塚さんは「“暗い明るさ”は、ランプそのままの“生の光”ではなく、光を整理することで得られます」と言う。そうした細かい調整を経て実現した事例を二つ見てみよう。

商品に当てた光の映り込みによる明るさ

インフィニート アルフレッドバニスター



「インフィニート アルフレッドバニスター」は、ストリートファッションの新しいスタイルを目指した新ブランド。シューズやブーツ以外にもTシャツなどのアイテムも置く。このショップでは中央の軸線に並ぶリング状の回転什器とディスプレイ棚が、デザインの核となるポイントだ。照明器具の姿はなるべく見せないようにして、回転什器に注意を向けたい。

「暗い明るさ」を求めるためにスポットライトとしたかったが、天井面の全体にわたって空調などの既存ダクトが入り組んでいた。通常は天井面は大きく手を加えられないので、当初はダウンライトで対応することも考えられたという。しかし、「スリットの中から光を当てることができないか」という大塚氏のアイデアによって、造作工事でスリットを新たに作り、その中に照明器具を仕込むことが検討された。

天井の中央部分を下げ、スラブとの間に約200mmの空間を確保。曲げ加工した鉄板で部材を製作し、天井面を壁際から滑らかにつなげることで、下がり天井となっていることは極力感じられないようにしている。この部分にスポットライトを仕込むため、スリットをショップの間口に対して直交方向に左右2列設けた。スリットの内側には両サイドにスポットライトが配置され、光はクロスするように、回転什器やディスプレイ棚に当てられる。

回転什器に当てられる光は、スプレッド機能をもつレンズを通して。通常は光を横方向に細長く伸ばすレンズだが、この角度を斜めや縦方向にずらし、複数のライトで当てた。凹凸加工の施された金属製の什器が回転する際、キラメキが出ることを狙っている。

またスポットライトの数は、メインの商品となる靴の数を予想して換算されている。比較的小さい靴のそれぞれにスポットライトの光を当てると、器具の数は当然多くなる。「一般的には全体にダウンライトなどで光を当てるベース照明とするのですが、革製品は1点ずつ丁寧にハロゲン光を当てないと質感の良さが見えません。また靴は、つま先の光の当て方で印象が変わってきますから。商品の移動に対応できるスポットライトとすることは運営面でも有利でした」と細やかな配慮を山口さんは語る。なおショップの奥では、ダクトなどの関係でスリットを設けることができなかったため、ダウンライトとしている。ここに陳列されるのはTシャツなどで、このショップでは特殊なアイテムであったため、全体の中で表情に変化を付けるためにもCDMランプを入れて処理している。



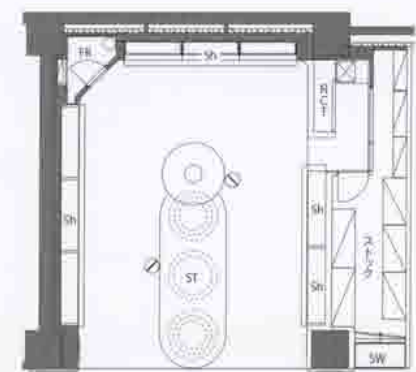
前頁: ディスプレイステージ正面から回転式のハンガー什器を見上げる。ステージ、ハンガーともに反射率と輝度の高い素材を使用し、直接的な光澤をわずかにきらめき感や明るさ感を出している。
上: 店内全景。200mm下げた天井からスポットライトを壁面と回転什器に当てている。

このショップではベース照明や間接照明を用いず、明るさ感や照度は商品に対して打ち込む光で得ている。更に、ブラックステンレスの什器など反射率の高い素材が使われたインテリアに、明るい商品が映ることで明るさ感が出ている。山口さんは「映り込みが多いインテリアでは、照射する個所が限られてくるので、店全体の明るさ感を出すのに苦労します。しかも、黒い素材に光を直接当てても明るくなりませんから」とこのショップならではの難しさを語る。大塚さんは「周辺環境の制御はできないので、悩みどころですね。特にテナントショップでは周りからの光やサインなど、予測できないものが映り込むことがあります」と語る。

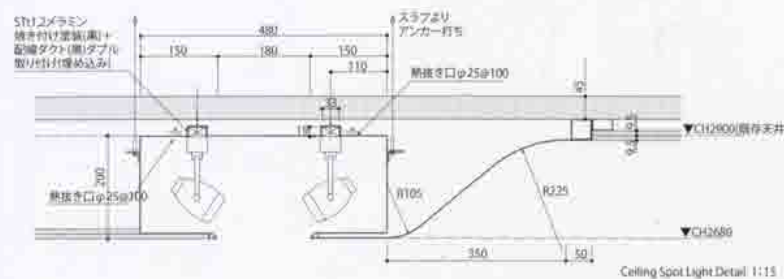
「光学的な」光の計画は、一点豪華主義の装飾的な光の演出とは異なり、地道に空間全体をつくっていくことに他ならない。印象深い空間づくりはこうしたシビアなプロセスから生まれてくるものであることを実感させられる。

Data: インフィニート アルフレッドバニスター

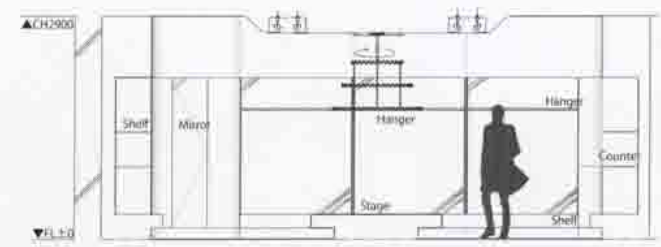
所在地.....東京都渋谷区神宮前1丁目11-6 ラフォーレ原宿1階
電話.....(03) 3796-5582
設計.....大塚ノリユキデザイン事務所
照明.....オンアンドオフ
施工.....タウンデザイン
撮影.....高山幸三



Plan 1:100



Ceiling Spot Light Detail 1:15



Section Elevation 1:100



Interior Lighting Analysis

青白い光溜まりの追求

ルシェルブルー 渋谷

20~30代女性をメインターゲットにした「ルシェルブルー 渋谷」は地下にある奥に細長い空間だ。1階にはプレスオフィスやVIPルームを設けている。

店舗は全体に照度と明度を落とした空間で、青白いブランドカラーが要所で浮かび上がっている。この青白さを生む光は、どこから発せられているのか一見して分からない。天井面には3.2mm厚の特注の高光沢化粧板で製作された約550mm角の「コンパクト」と呼ばれる物体が一面取り付けられている。この黒くツヤのある物体の間に、スポットライトが仕込まれているのである。

山口さんとのやりとりでは具体的な装置の指定よりも、光や色の質のイメージが伝えられた。大塚さんの考える「暗い明るさ」は、光が当たる位置によるところが大きい。「光の溜まる位置を目線より下にすることが重要」と語る

大塚さん。目線より上にグレア感を感じると、空間全体が明るく見えてきてしまう。ここでは天井から狭角の光でディスプレイや壁に打ち込むので、目線より上には光の溜まりがない。また、棚下やハンガーで設けた間接照明も、目線より下だ。

山口さんは「天井面に光がないのであれば、どこに光を溜めて見せていくかを考えました。大塚さんは、光自体を見せるというよりも、光をディスプレイや壁に馴染ませつつ浮かび上がらせるという意識が強いです」と言う。その一例が、壁に設けられた本棚を模したディスプレイである。薄い青の色をした本の背表紙が自然に浮き立たせるため、四角くトリミングされた光が当てられている。通常のスポットライトでは光は中心から周辺に向かって暗くなるが、レンズを装着すると中心と周辺がほぼ同じ照度で

き、フラットな光をつくることができる。また入り口すぐの壁面は、色温度の高いフィルターをかけ、青味が強く出るようにしている。「ブルーの物にブルーの光を当てることで彩度が上がり、物自体が発光しているように見える」と大塚さん。

そして二人は、来店者が興味をもって歩くことができるようにストーリーを考えながら、光のリズムを付けていった。入り口付近は明るく、少し進むと暗くなり、奥はまた明るいとところがある、というように。なお狭角の光は、当てられた方向を人が通るときに、その反射でフラッシュが光るような効果も生み出した。「コンパクト」もツヤのある仕上げなので、明るい色の洋服を着た人は映り込み、空間全体に動きが出る。

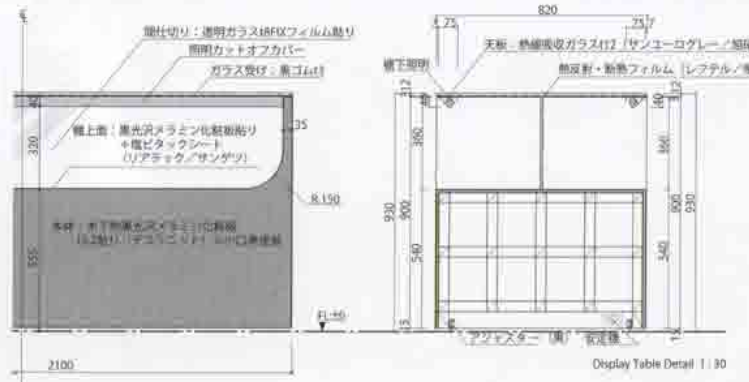
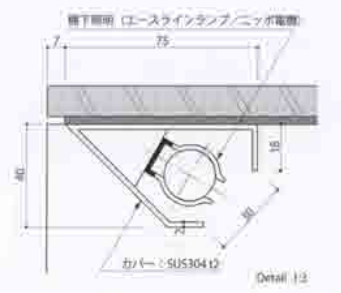
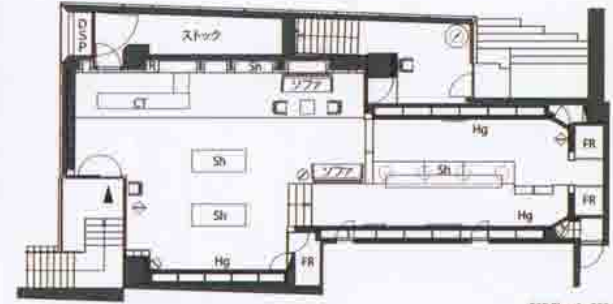
大塚さんは、照明を仕込んだ仕器も製作した。黒いガラ

ス天板と化粧板でつくられた棚仕器は、中で照らされている光がエッジで切れている。フィルムを巻いて少し照度を落とした蛍光灯の光は、ステンレスのカバーでカットオフ。光が外に漏れないように調整され、仕器内に光がこもるような不思議な効果を生み出している。

そして、スポットライトの現場調整の様子は特徴的だ。工事業者に一度取り付けしてもらった照明器具をすべて外し、真っ暗な状態にしてから再度一つずつ付けていくというのである。「あらかじめライティングレールの位置や配線、器具の数などは条件に合わせて設定しておくのですが、現場では一度リセットします。大塚さんや店の人とやりとりしながら、対応していくのです」と山口さんは語る。「イメージに近づいたと確信がもてた時点で終了」という、何ともアーティストチックな光の作り方である。



97頁：レンズスポットにより四角く切り取られた光が本棚風の壁面を照らしている。
左頁：入り口付近から地下1階の店内を見通す。女性の手鏡をイメージさせる「コンパクト」と呼ばれる天井部は特注のメラミン化粧板が貼られている。間接照明の入った平型仕器は柔らかい光を漏れている。上：店内奥から見返す。突き当たりに見える入り口すぐ脇の壁面は色温度の高い光を当て、壁面自体が青く光っているように見せている。
左：1階のVIPルームにつながる階段室。大きなローレット（ギザギザ状）の加工を施したアルミパイプでオブジェを製作し、天井からジャンテリアのように吊した。このオブジェに天井面からスポットライトで光を当て込むことで、オブジェ自体が発光しているように感じられる。階段の段鼻に滑り止めとして設置したステンレスバーには、超集光レンズを付けたLEDで1段階ずつ光を当てた。バーには光の方向とは直角にヘアラインを入れ、細かい反射を得ている。



Data: ルシェルブルー 渋谷
所在地.....東京都渋谷区神南1丁目18-2
 フレーム神南坂 地下1階~1階
電話.....(03) 5428-4357
設計.....大塚ノリユキデザイン事務所
照明.....オンアンドオフ
造本.....ムーンクロースタジオ
空調.....スペースエンジニアリング
LEDサインシステム.....大野技術研究所
施工.....長谷川
撮影.....平井広行